

吉田鉄郎氏が残した、もうひとつの遺産「検見川送信所」

廃虚スポットから文化遺産へ



東京中央郵便局近くのJR東京駅から電車で約45分総武線JR新検見川駅近くに、吉田鉄郎氏が残した、もうひとつの遺産があります。

検見川無線送信所は世界が無線時代に突入した1926年(大正15年)竣工。コールサインは日本第1号と表す「J1AA」。1930年(昭和5年)10月27日にはロンドン海軍軍縮会議の締結を記念した浜口雄幸首相の演説を米

英に届けました。これが日本初の国際放送となりました。

戦後も通信技術の向上に貢献しましたが、1979年(昭和54年)閉局し、現在は廃虚となっています。所有者である千葉市は周辺一帯を含めて再開発しており、近い将来、建物を取り壊す方針です。

「検見川送信所を知る会」の活動

検見川送信所は首都圏の廃虚スポットとして有名ですが、地元の方でも実際にどんな建物でどんな重要性を持っているのかは、十分に知られていません。

そんな実情を知った市民が2007年夏、「検見川送信所を知る会」(代表・仲佐秀雄、約80人)を結成しました。同会では①大正期のコンクリート建築であり、戦災で大正期の建物がほとんど残っていない千葉市にとって貴重な文化遺産②送信所が担った電波電信は近代史において重要な意味を持つ、という2つの観点から建物の保存・利活用を市民や行政側に強く訴えてきました。



バブル期のスクラップ&ビルドの時代は終わり、近代建築の価値の見直しが進んでいます。また、これだけの頑丈な建物を取り壊すということは多額の費用もかかり、大量の産業廃棄物を生み出すことにもなります。この送信所を修復し、建物を活用することで新たな市民の資産、観光資源となり、町の活性化にも大いに貢献するのではないかと考えています。

同会では今年2月に建物の見学会や建築史家・倉方俊輔氏を招いた講演などを行っており、千葉市議も大きな関心を持っています。5月には所有者である千葉市に保存、利活用を要望するなど働きかけています。今後も、効果的な活動をしていきたい、と思っています。それには多数の声が必要です。**私たちの活動の趣旨に賛同・興味を持って下さった方はぜひ同会に入会してください。現在、企画中のイベントなどもあり、詳細が決まり次第、ご案内いたします。**

(※記事中のコンピューター・グラフィックスは同会メンバーが作成した竣工当時の再現イメージ)

詳細は「検見川送信所を知る会」ホームページをご覧ください。

<http://kemigawaradio.web.fc2.com/>

- 2007年8月 「検見川送信所を知る会」発足。10月27日開催のイベント企画を開始。
- 9月9日 メールマガジン『検見川送信所 J1AA 通信』を発刊
- 10月12日 朝日新聞・第1千葉面に「知る会」の活動が大きく取り上げられる。
- 10月27日 第1回イベント『ほほ満月 ただの月見@検見川送信所』を開催。満月どころか台風直撃のさなか、約50名が参加。
- 11月4日 「知る会」会報 Vol.1 を発行。
- 11月6日 代表・仲佐秀雄氏が講師となり、地元の市立検見川小学校で検見川送信所の歴史や役割を学ぶ授業を行う。
- 11月14日 チバテレビのニュース情報番組「ニュース C-master」で、「知る会」と10月27日開催のイベントが紹介される。
- 11月17日 検見川送信所ミニ見学会を実施、10数人が参加。
- 11月24日 読売系地域新聞「千都よみうり」に、10月27日開催のイベントが紹介される。
- 2008年2月 「知る会」のホームページを開設。
- 2月23日 送信所見学会(昼の部)と、「送信所ナイト」と銘打ったシンポジウム(夜の部)を開催、延べ70名を動員(その後、「朝日マイタウン情報」「千都よみうり」に内容が掲載)。
- 5月13日 「知る会」スタッフが千葉市教育委員会を訪れ、検見川送信所の保全・利活用を要望する。

問い合わせ先:「検見川送信所を知る会」事務局

kemigawamusen@goo.mail.ne.jp